

2022-02 経営協議会議事概要

日時 令和4年6月24日（金）13:30～14:40

場所 オンラインにて開催

【※を付した構成員は事務局棟2階学長室にて出席】

出席者 伊藤学長（議長）

※志田，末松，高木，徳田，丸山，向井，横山，※渡辺 各学外委員
鶴原，緒方，尾西，今西，西岡，田中，池田，木下 各学内委員

欠席者 二井，廣田 各学外委員

陪席者 服部，小川 各監事

I 審議事項

1. 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について

尾西理事から、「資料：審-1-1，1-2，1-3，1-4，1-5」に基づき，今回の第3期終了時の評価では，2020年度に実施された「4年目終了時評価」後の5年目，6年目における状況を報告し，評価を受けるものであることと，法人評価委員会及び大学改革支援・学位授与機構に提出する報告書（案）についての説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

2. 令和5年度概算要求について

尾西理事から、「資料：審-2」に基づき，令和5年度概算要求の各要求内容についての説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

<主な意見>

- 桑名市と連携するDXを活用した医学分野における社会との共創推進組織について，今後の展開についてはどう考えているのか。
- まずは桑名市から取り組みを始めて，その後三重県全体へ，地方の医療DXへと展開していきたい。また，今後は観光ともリンクして考えていきたい。
- 要求した予算の全額が獲得できるのか。カーボンニュートラルや医療の高度化等，時代の大きな変化に応じた要求であり，削減されるべき予算ではないと考えるので，何とか予算獲得に向けて行動してほしい。
- 文部科学省の評価によるが，満額を獲得することは難しいと思われる。委員を含め，各方面にもご支援を仰ぎたい。

3. 人事労務に関する規程等の改正について

尾西理事から、「資料：審-3」に基づき，法令等の改正，関係各庁からの指導等を受け，規程等の改正を行うことについての説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

4. その他
なし

II 報告事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードについて

尾西理事から、「資料：報－1-1, 1-2, 参考資料1, 2, 3」に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードの改訂内容及び今後の適合状況自己点検に係るスケジュールについての報告があった。

<主な意見>

- 今回ガバナンス・コードが改訂されたのはなぜか。また、全国の大学でも同様に改訂されているのか。
- 全国で総長や学長の不祥事が相次いだため、全国一斉にガバナンス・コードの見直しが行われた。大学をしっかりと管理・監督するよにとの指示である。
- 学長選考・監察会議委員の選出方法については、独立性や透明性の観点から基準を定めるのが難しいと思うが、細部はどのように決定するのか。
- 今後検討していく必要がある。
- 学長選考・監察会議について、委員が集まって評価方法等をしっかりと議論する必要があると考える。

2. 令和3年度就職状況調査の報告について

野崎副学長から、「資料：報－2」に基づき、令和3年度卒業生の進路状況について、県内就職率や産業別の就職状況と、その分析について報告があった。

<主な意見>

- 三重県における小学校教員採用占有率が低いのはなぜか。また教育学部教員養成課程の教員就職率が低いのはなぜか。
- 教育学部全体の中で三重県出身者は69%程度であり、小学校教員の採用試験を受験する学生は多くて80名程度である。仮に80名全員が合格したとしても、占有率が40%に届かないという状況である。また教員養成課程に入学した学生は全員が教員志望であるべきだが、教職に就かない学生も一定数存在する。教育学部としては教員志望の学生に入学してもらうことが目標であり、入試方法や教育内容が課題であると考えている。
- 三重県における小学校教員採用占有率は令和3年度が最も低く、また教育学部教員養成課程の教員就職率も下がってきている。入学してきた学生を、どのように教員として養成していくか、また三重県で小学校教員になる学生を増やすにはどうすればよいか、対策を考えていきたい。
- 教育学部の卒業生について、教職に就かない学生はどこに就職しているのか。
- 公務員になる学生が多い。

- 入学時から三重県の教員志望で入学してくる学生はどの程度いるのか。
- 他大学に比べて低く、60%から70%程度である。ただし教員採用試験を受験する学生の割合は、他大学とあまり変わらず60%前後であり、合格率も高い。教育学部志願者には、出願時に「教員志望確認書」を提出させているが、それでも教職に就かない学生がおり、そのような学生に対してどのように対応するかが教育学部としても課題である。高校との連携も必要だと考えている。
- 教育学部で学んだ学生の活躍の場が多様化しているということも、今後指標を考える際に考慮するとよいのではないか。
- 教員の採用数が少ないことが大きな問題である。三重大学の課題を高校側の課題とも捉えて、生徒のキャリア教育につなげていく責任があると感じる。
- 県内就職率について、最近は一度就職したらずっとその企業に勤めるのではなく、途中で転職するケースも多い。就職後数年経って、どれくらいの学生が県内に留まっているのか、追跡調査をしていただきたい。
- 追跡調査については、ぜひ実施したい。

3. その他

(1) 次回開催について

9月16日(金) 13:30~

Ⅲ 意見交換

1. その他

なし

以上